

<対策のポイント>

農業者の急減が見込まれる中、作業労働時間が短く水稻等と作業ピークが異なる**麦・大豆**は国民生活や農業経営において重要な作物である一方で、単収が低いことや気候変動の影響を受けやすく供給が不安定などの課題があります。

安定供給に向けた取り組みを推進するとともに、**生産性向上**に向けて、**適切な輪作体系や団地化、ブロックローテーションの構築等**を進めつつ、**排水対策等の基本技術や多収品種等の導入等の取組を推進**することが重要です。

このため、地域の実情に配慮して、水田・畑にかかわらず、生産性向上の取組に対し、**収量に応じた面積払いにより支援**します。

<事業の内容・イメージ>

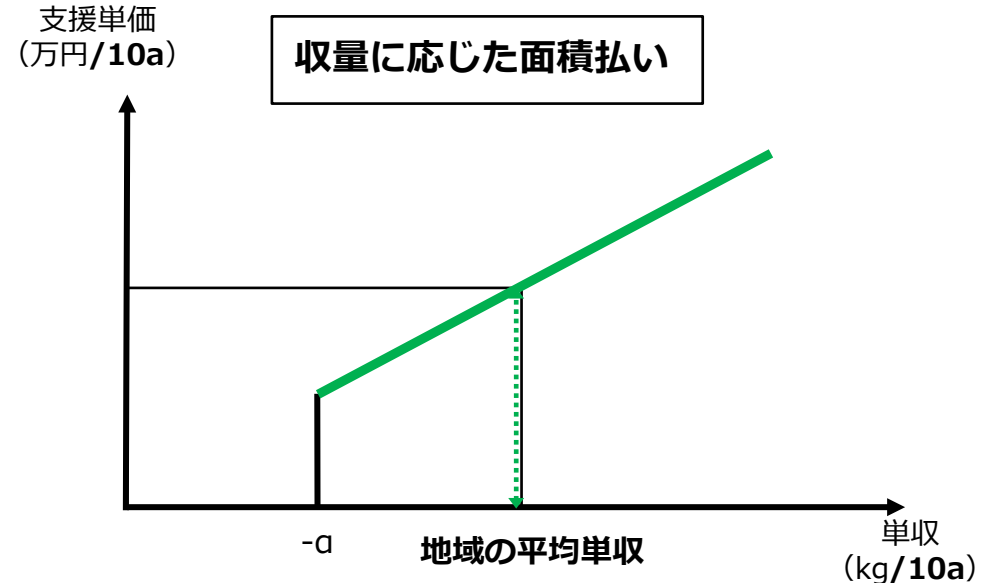
対象作物：

- ・麦（小麦、二条大麦、六条大麦、はだか麦）
- ・大豆

支援単価等：

適切な輪作体系や団地化、ブロックローテーションの構築等を進めつつ、排水対策等の基本技術や多収品種等の導入等の生産性向上の取組を行う者に対して、収量に応じた面積払いにより支援します。

水田・畑における営農体系や生産コスト等を踏まえて、農業者の努力が報われるものとなるよう、それぞれ設定します。



※ 単収向上に関しては、都道府県別の単収をその基準とすることを基本とし、地域差に配慮した形とするとともに、災害等のやむを得ない事情による単収減についても配慮するなど、地域の実情にあった形での支援を検討します。

なお、地域の平均単収を一定以上下回る場合は支援は行いません。

国産麦・大豆供給力強化対策

令和9年度予算概算要求額 781百万円（前年度－）

<対策のポイント>

産地と実需が連携して行う**麦・大豆の国産化**に向けて、国産麦・大豆の安定供給に向けた**ストックセンター等の再編集約・合理化**※や民間主体による**一定期間の保管**、**新たな生産・流通モデルづくり**、更なる利用拡大に向けた**新商品開発**等を支援します。

<事業目標> [令和5年度→令和12年度まで]

- 小麦生産量の増加（109万t→137万t）
- 大麦・はだか麦生産量の増加（23万t→26万t）
- 大豆生産量の増加（26万t→39万t）
- 国産小麦・大豆の保管数量（小麦：28,774 t→90,000t、大豆：6,258t→25,500t）

<事業の内容>

1 流通対策

① 麦・大豆供給円滑化推進事業

国産麦・大豆を一定期間保管するなど、安定供給体制を図る取組を支援します。

② 新たな生産・流通モデルづくり事業

麦の品質向上や極多収大豆の種子生産、生産・流通・加工の各段階における課題解決に向けた取組に加え、国産大豆の入札の実施など、**新たなモデルづくり**を支援します。

2 消費対策（麦・大豆利用拡大事業）

国産麦・大豆の利用拡大に取り組む食品製造事業者等に対し、**新商品開発**等を支援します。

（関連対策）

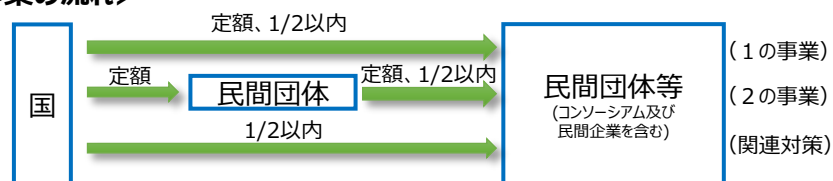
新基本計画実装・農業構造転換支援事業のうち

麦・大豆ストックセンターの再編集約・合理化

2,000百万円

国産麦・大豆の安定供給を後押しするため、**ストックセンター等の再編集約・合理化**を支援します。

<事業の流れ>

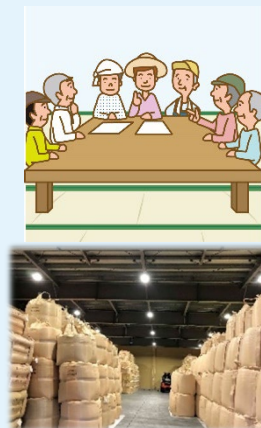


【お問い合わせ先】（1①(大豆)、1②の事業、関連対策）

（1①(麦)、2の事業）

<事業イメージ>

流通対策



- ・一定期間の保管等（定額、1/2以内）
 - ・新たなモデルの実証（定額、1/2以内）
 - ・ストックセンター等の整備※（1/2以内）
- ※関連事業で支援

消費対策



新商品の開発等（定額、1/2以内）

麦・大豆の国産化を一層推進

農産局穀物課

（03-6744-2108）

農産局貿易業務課

（03-6744-9531）